

一宮市三岸節子記念美術館

三岸節子〈短歌ポスト〉入選作品（令和二年後期分）

選者 小塩卓哉（中部日本歌人会顧問）

【優秀作】

* 細い運河 *

細い路地水面に映る空の色明日はきつと逢える気がする

愛知県津島市 大橋 光江

〈評〉 上句では絵画に描かれている情景を、下句では、その絵を見た自分の思いを描いている。「明日はきつと逢える気がする」のは、薄暗い画面に一筋青い空が描かれているのを見たことから、浮かんだインスピレーションだろう。絵画を鑑賞に来る人の目的が、まさに言語化されている。



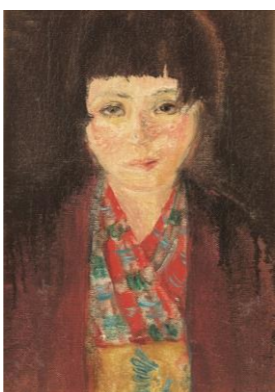
三岸節子《細い運河》
1974年 ©MIGISHI

* 自画像 *

来ましたよ今日の節子はおこってる悪い私はしかられに來た

愛知県稲沢市 伊藤 榮津

〈評〉 節子の「自画像」を見にくることが習慣となっている作者なのだろう。「しかられに來た」自分は、そのような習慣の中で、節子に叱ってもらいたい気持ちで來館する前からあったのだ。常設展で、入り口から入って正面に置かれるこの絵に関しては、挨拶をする思いで見ている人が多いのかも知れない。



三岸節子《自画像》
1925年 ©MIGISHI

* ブルゴーニュのブドー畑 *

かおりくるむらさきいろのぶどうたちやまいちめんにただようかぜに

愛知県稲沢市 鮫島 信子

〈評〉 ぶどうの一粒一粒がはっきりと確認できる絵ではないが、まさに「やまいちめん」に広がる葡萄畑の存在感が見る者に迫ってくる絵である。「ただようかぜ」は作者の想像力の産物だが、風を意識すること、ぶどうの芳醇な香りが、絵を飛び出してこちらに届くようである。

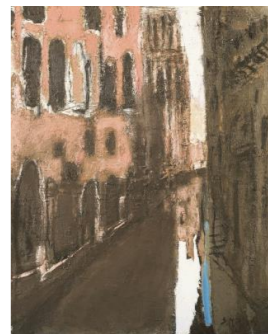


三岸節子
《ブルゴーニュのブドー畑》
1979年 ©MIGISHI

【佳作】

細い運河

ベネチアの細き運河にひとすじの青にみせられ絵の具を溶かす
愛知県春日井市 西口 昭雄



三岸節子《細い運河》
1974年 ©MIGISHI

小さな町（アンダルシア）

尾張来て酷暑の夏に出会いたるアンダルシアに一陣の風
愛知県日進市 竹田 敏子



三岸節子
《小さな町（アンダルシア）》
1987年 ©MIGISHI

作品I、作品II、花（ヴェロンにて）

視界に入った、○△□感じる息吹キャンバスに散る
愛知県稲沢市 坂倉 知里



三岸節子《作品I》
1991年 ©MIGISHI

その他

いつ来ても花が咲いてるこの場所は三岸の館心なごまん
一宮市 遠藤 浩三



三岸節子《作品II》
1988年 ©MIGISHI

小運河の家（1）

どこまでもどこでも続く運河あるゆらゆらすると魔法の城
一宮市 中学校 安田 伊吹



三岸節子
《小運河の家（1）》
1989年 ©MIGISHI



三岸節子
《小運河の家（1）》
1972年 ©MIGISHI